

4-4 実践事例及び考察

実践事例4 第6学年 要旨を捉え、鹿島の未来をえがいたプレゼンテーションをしよう

教材 「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」（東京書籍 6年）

○実践校における課題の焦点化

「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えること」



○課題の解決に向けて必要な力

「文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える力」



○授業改善のポイントを生かした手立て

ア 児童に見通しをもたせ、主体的な学びをつくること

〔手立て①〕 既習の説明的文章を副教材として用いて、学び方を確認させる。

〔手立て②〕 文章の内容を的確に押さえるために「読みのものさし」を使って読み取り、プレゼンテーションをつくる技と関連させる。

イ 単元を通して言語活動を位置付けて授業を行っていくこと

〔手立て③〕 単元を通じた言語活動として「プレゼンテーション」を位置付け、主体的な学習を促す。

ウ 自分の考えを広げたり深めたりさせる話合いを授業に取り入れること

〔手立て④〕 児童が考えを広めたり深めたりする場として、グループ学びや全体学び（なるほどタイム）を設定する。

エ 学びを自覚させる振り返りを取り入れること

〔手立て⑤〕 振り返りで、「学習して分かったこと」をまとめさせ、自分の学びを自覚させる。

指導計画

- 1 単元名 要旨を捉え、鹿島の未来をえがいたプレゼンテーションをしよう
教材「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」（東京書籍 6年）

2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、説明文「イースター島にはなぜ森林がないのか」で、要旨を捉える学習を行っている。「序論・本論・結論の文章構成を捉える、キーワードや文末表現に着目し事実と意見を区別して読む、課題提示に対する原因やまとめを整理する」などの学習を通して、筆者の主張を読み取り要旨を捉えた。要旨を捉えるには、文章構成をつかみ、結論部分にある筆者の主張を中心にまとめることは理解できている。しかし、結論と事例とのつながり（事例の役割）や内容の中心となるキーワード、題名とのつながりから要旨を捉えることや、求められている分量や表現の仕方に合わせてまとめること、要旨を筆者の主張として読み取り、それに対する自分の考えをもつまでには至っていない。要旨を捉える力に対して学習状況調査を基にした事前調査によると、正しく要旨を捉えることができる児童は50%であった。誤答を分析してみると、字数の条件を満たしていなかったり、要旨を捉える際のキーワードとなる言葉を記述することができなかつたりしていることが分かった。このことから、内容の中心となるキーワード、題名とのつながりから要旨を捉えることを指導していく必要がある。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の第5学年及び第6学年における「C読むこと」の指導事項「ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること」をねらいとして設定している。

本教材では、コミュニティデザインという考え方「人と人とのつながり」の重要性を紹介しながら、大きな二つの視点「地域の住民が主体的に町作りに参加すること」「未来のイメージを具体的にもつこと」に基づいて、事例を挙げて分かりやすく述べている。段落ごとのまとめも理解しやすく、筆者の主張や事例を捉えやすい。文章構成が分かりやすく、序論で問題提起とコミュニティデザインの説明、本論で具体的に事例を挙げながら資料を用いて分かりやすく説明している。結論では題名の「町の幸福」に触れながら、読者に語り掛けていることから筆者の主張が読み取りやすい。筆者の要旨を捉え、筆者の主張に共感したり自分の経験と比べたりして自分の考えをもちながら「鹿島の未来」についてのプレゼンテーションへ意欲的に学習に取り組むことができると考える。教材文を読み取った力を生かし、言語活動に活用するのに適した教材である。

教材の分析

I：構成を読む	①双括型	→序論・本論・結論に分ける。序論・結論を比べる。
II：事例を読む	②事例の役割（課題・取り組み・結果） ③根拠	→事例の述べ方を文章構成図にまとめさせる。本論に小見出しを付ける。 →まとめと事例をつなげて考え、事例と意見の関係に気付かせる。 事例の共通点、3つの事例を挙げたのはなぜか。
III：キーワードを読む	④観点	→キーワードを検討させる。「コミュニティデザイン」とつながる言葉は何か。
IV：題名を読む	⑤題名（筆者の主張型）	→『町の幸福論』の『幸福』とは何か。『論』で何を論じたいのか。 キーワード、序論、結論をつなげて考えさせる。
V：要旨を捉える	⑥事例と筆者の主張	→文章構成、小見出し、キーワード、題名等から筆者の主張と内容の中心をまとめさせる。

(3) 指導観

本単元の学習課題は、「要旨を捉えそれについての自分の考えを、事例や筆者の主張と関連付けて、鹿島の未来をえがいたプレゼンテーションをしよう」という単元を通した学習課題を位置付ける。筆者の主張や筆者が提案するために文章構成や事例を工夫したことを基に、自分のプレゼンテーションに生かしていくものとする。自分の考えたことを提案して納得してもらうために教材文から筆者の主張や工夫を読み取っていくようにする。従って本単元でねらう「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読むこと」を実現できるようにしている。

課題解決の具体的な手立てとして、以下の5つを行う。

① 既習の説明的文章を副教材として用いて、学び方を確認させる。

教師のプレゼンテーションを参考に、「知って」「使って」「使えるようになる」単元計画で行う。第一次で、既習の説明文を副教材として用い、要旨の捉え方を確認し、プレゼンテーションを作る技を習得させる。…「知って」

第二次では、自分たちのプレゼンテーションを作る際、本教材が手引きとなるように、教材文を読み取りながらプレゼンテーションの作り方を習得させる。…「使って」

第三次では、第二次で習得したプレゼンテーションの技を使って、自分たちのプレゼンテーション作りに活用するという流れで行う。…「使えるようになる」

② 文章の内容を的確に押さえるために「読みのものさし」を使って読み取り、プレゼンテーションをつくる技と関連させる。

教材文全体に筆者の主張が散りばめられていて、要旨を捉えるためには、俯瞰的に教材文を読み、文章構成や3つの事例の役割、キーワード、題名から内容を的確に押さえる必要がある。要旨を捉える方法として「読みのものさし」を使って読み取らせる。そして、習得した「読みのものさし」がプレゼンテーション作りに活用できるように関連付ける。プレゼンテーション作りには、「構成の工夫（序論・本論・結論）」「事例の提示（事例の役割）」「観点となるキーワード（内容の中心）」「題名（筆者の主張）」「要旨」の「読みのものさし」が必要である。

※「読みのものさし」とは、児童に身に付けさせたい、目的や意図に応じて文章を読むための方法や能力、学習用語のこと

③ 単元を通した言語活動として「プレゼンテーション」を位置付け、主体的な学習を促す。

第一次では、単元を見通した課題意識をもたせる。今の鹿島を考え、鹿島の未来を想像させる。また、地域の人との関わりを振り返らせ、自分たちの町の「人と人とのつながり」について考えさせる。教師が武雄市を事例としたモデルのプレゼンテーションを行い、意欲付けを図る。そして、明倫まつりで地域や市役所の方に向けたプレゼンテーションを行うことを設定し、見通しをもたせたい。

第二次では、要旨は筆者の論じている観点や述べ方に工夫があることに気付かせる。要旨を捉えるためには、筆者の主張を構成や事例と関連付けながら見付けていくことを伝え、単元の学習課題を明確につかませる。第三次のプレゼンテーションをする目的や観点を考えながら教材文を読ませる。効果的なプレゼンテーションを行うためには、資料の活用方法（情報の取捨選択）にも目を向けさせ、読み取りを行いながら、実際に教材文でプレゼンテーションを作っていく。

第三次では、第二次で習得した技を活用しプレゼンテーション作りを行う。自分たちの町の課

題や現状、取組を調べ、「鹿島の未来像」を考えさせる。自分たちの提案が聞き手によく伝わるような構成や資料の見せ方を工夫させる。発表内容に必要な資料を集め整理したり、要旨がぶれず簡潔に伝えられるよう構成メモにまとめさせたりする。

④ 児童が考えを広めたり深めたりする場として、グループ学びや全体学び（なるほどタイム）を設定する。

第一次では、グループ学びを設定する。教師のモデルプレゼンテーションを見て、プレゼンテーションを作るには、何が必要でどのような順番で作っていくのがよいか考えさせる。そして、既習教材でプレゼンテーションを作り、第二次で学ぶべきこと、第三次のプレゼンテーション作りへの見通しをもたせる。

第二次の教材文を読み取る学習では、グループ学びや全体学び（なるほどタイム）を適宜取り入れる。筆者の考えに迫るために、「読みのものさし」を基に読み取り、いろいろな視点で話し合わせたい。全体学びでは、友達の考え方に触れることで読みを広げたり深めたりして自分の考えをより良いものにする。グループ学びでは、自分の考えをもち一人一人が意見を述べる場をもつことをねらう。

第三次では、グループ学びを設定する。プレゼンテーション作りにグループで互いに学び合いながら協働し取り組ませるよう位置付ける。効果的なプレゼンテーションを行うために、発表の構成や資料の提示の仕方など納得できるかどうか、より分かりやすく説得力のあるプレゼンテーションになるか、身に付けた技を使って話し合わせる。

⑤ 振り返りで、「学習して分かったこと」をまとめさせ、自分の学びを自覚させる。

毎時間の学習の振り返りで「分かったこと」「自分にどんな力が付いたか」など「読みのものさし」を使い、習得した技について自分の言葉でまとめさせる。また、毎時の振り返りには「読みのものさし」と「プレゼンテーションにどう生かせるか」とプレゼンテーションの技としてノートにまとめることで、メタ認知させる。

3 単元の目標

〇目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。

4 単元の評価基準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・町の未来に関心を持ち、教材文や本、資料を読んで調べ、その内容を相手に伝えようとしている。	・目的に応じて、話の構成を工夫している。 (イ)	・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、事実と意見などとの関係を押さえ自分の考えを明確にしながら読んでいる。(ウ)	・目的に応じた文章の構成について理解している。(イ(キ))

5 指導と評価の計画（全15時間）（授業改善のポイントを生かした手立てについては、番号と下線で示す 『①---』）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】と 評価方法（ ）
一	1	○鹿島の未来について考える。 ○学習課題を設定し、単元のゴールを知り、学習計画を立てる。 全体学び	<ul style="list-style-type: none"> ・教師作成のプレゼンテーションを見せ、本単元の学習に興味をもたせる。 ・相手や目的を明確にし、プレゼンテーションを行う学習計画を立てさせ言語活動全体の見通しを明確にもたせる。 ・町作りに関する本や資料を読むことを知らせる。 	【関】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの町の未来に関心を持ち、プレゼンテーションを見て、教材文を読もうとしている。（発言、ノート）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>《学習課題》③要旨を捉えそれについての自分の考えを、事例や筆者の主張と関連付けて、鹿島の未来をえがいたプレゼンテーションをしよう</p> </div>				
	2 3	○ <u>既習教材を読み取り、プレゼンテーションを作る。</u> ④ グループ学び 全体学び	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを作るためには、何を読みとる必要があるのか考えさせる。 ・要旨を捉えるためには、内容や筆者の主張を読み取ることが必要であることを伝える。 ・実際にプレゼンテーションを作らせ、プレゼンテーション作りの技を習得させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>②読みのものさし</p> <p>①序論・本論・結論に分け、序論・結論を比べる。</p> <p>②本論に小見出しを付け、事例の述べ方を読み取る。</p> <p>③事例（具体）と意見（抽象）の関係を読み取る。（まとめと事例をつなげて考える。）</p> <p>④キーワードや文末表現から筆者の主張を読み取る。</p> <p>⑤小見出し、題名、序論、結論から要旨を捉える。</p> </div>	【読（ウ）】 <ul style="list-style-type: none"> ・「読みのものさし」を使ってプレゼンテーションを作っている。 ・小見出しやキーワード、結論を手掛かりに要旨を捉えることを理解している。（発言、ノート）
二	4	○文章構成をつかみ、序論と結論を比較する。 ひとり学び 全体学び	<ul style="list-style-type: none"> ・題名から想像したことを話し合ったり、題名を問いの形にして内容を予想させたりする。 ・筆者の主張を見付けるために、序論・本論・結論に分けさせる。 ・筆者の主張は序論と結論にあることから、文章構成（双括型）に気付かせる。 <p>➡プレゼン技①構成 説得させるための構成の工夫 双括型</p>	【読（ウ）】 <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成について理解している。 【言（イ（キ））】 <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた文章の構成について理解している。

			(発言、ノート)
5	○段落相互の関係に着目し、事例の挙げ方から筆者の主張を読み取る。 ひとり学び 全体学び	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語に着目させながら、事例と意見の段落に分け本論を小部屋に分けさせる。 ・小部屋（意味段落）に小見出しを付けさせる。 ・3つの事例の意図や事例の述べ方について話し合わせ、事例の役割を読み取らせる。 ・3つの事例について共通点と相違点を挙げ、『コミュニティデザイン』と関係付けて考えさせる。 <p>➡プレゼン技②③事例 小見出しとプレゼンの項目とのつながり 事例の述べ方、資料の活用</p>	<p>【読（ウ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読みのものさし」を基に、段落相互の関係に着目しながら、事例の挙げ方や順序から筆者の主張を読み取っている。 <p>(発言・ノート)</p>
6	○キーワードや文末表現、題名から筆者の主張を読み取る。 全体学び ④ グループ学び ひとり学び	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながり」「主体的」「未来」などの繰り返されている言葉や『豊かな未来』『コミュニティ』『町の幸福』というキーワードから観点を見付け、筆者の主張を捉えさせる。 ・筆者の主張（序論・結論）と事例の観点を押さえる。 ・題名と筆者の主張を関係付けながら考えさせる。 ・題名の「幸福」について考えさせる。 <p>➡プレゼン技③④観点 筆者の主張している観点と関連付けた事例</p>	<p>【読（ウ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を的確に押さえ、筆者の主張を捉えている。 <p>(発言、ノート)</p>
7	○要旨を捉える。 全体学び ④ グループ学び ひとり学び	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張と内容をまとめさせる。 ・要旨を検討させる。 ・序論や結論、題名、キーワードなど筆者の主張と関連付けて要旨を捉えさせる。 <p>➡プレゼン技⑤要旨 筆者の主張と内容の中心を捉えて要旨を書く。 キャッチフレーズ プレゼンテーションの説明</p>	<p>【読（ウ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を的確に押さえ、筆者の主張や題名、キーワードと関連付けて、要旨を捉えることができている。 <p>(発言、ノート)</p>
8	○要旨に対して自分の考えをもつ。 ひとり学び 全体学び	<ul style="list-style-type: none"> ・要旨を基にコミュニティデザインに対する自分の考えをまとめさせる。 ・事例と自分たちの住む町を比べさせる。 ・筆者の考えを自分たちのプレゼンテーションに生かし、未来のまちについて考えさせる。 ・自分達のプレゼンテーションに生かせるようノートにまとめさせる。 	<p>【読（ウ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確にししながら、読んでいる。 <p>(発言、ノート)</p>

三 9 10	○鹿島の町の課題や現状を調べる。必要な情報を集める。 ④グループ学び	<ul style="list-style-type: none"> 鹿島の町の課題や現状について調べたいことを話し合わせる。 鹿島の町の未来について考えながら情報を集めさせる。 筆者の主張と関連付けて提案を考えるように促す。 写真やグラフなど資料として用いるものも用意しておく。 <p>➡プレゼン技⑤③事例、要旨 筆者が主張した観点に沿った資料を選ぶ。</p>	【読（ウ）】 <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて複数の資料や本を比べて読み、必要な情報を選んでいる。 （発言、ノート）
11	○集めた情報を整理して筆者の主張に沿った事例を決める。 ④グループ学び	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の要旨に沿った、提案する内容について考えさせる。 事例と資料を選択し、吟味させる。 バックキャスト法を参考に、未来の姿を短い言葉にまとめ明確にさせる。 その都度、観点がずれていないか、主張が合っているか教材文を読み返しながらか作る。 <p>➡プレゼン技④⑤主張、要旨 筆者の言葉や教材文を引用するなど、筆者の主張する観点を明確にする。</p>	【読（ウ）】 <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて複数の資料を読み、情報を関連付けて活用している。 （発言、ノート）
12	○プレゼンテーションに必要な資料を作成する。プレゼンテーションの構成を決める。 ひとり学び ④グループ学び	<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報の事例を項目に合わせて整理させる。 提案や挙げる事例などを話す順に整理して構成メモを作らせる。 大事なことが明確に伝わる資料を作ったり、話のまとまりごとに短い言葉でまとめたりする。 <p>➡プレゼン技①②構成、事例 説得させるための構成の工夫（序論・本論・結論） 事例の挙げ方、資料の見せ方を考える。</p>	【話・聞（イ）】 <ul style="list-style-type: none"> 意見を伝えるために説得力のある構成や資料の見せ方を工夫している。 （発言、ノート）
13	○発表練習を行い、説得力のある話し方の工夫を考える。 ④グループ学び	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの始めに、プレゼンテーションの説明をさせる。（要旨） 原稿を書かせ、聞き手を引き付ける話し方や資料の見せ方を考えさせる。 提案の良さが伝わる発表の構成や資料の使い方になっているか感想を述べたり助言や提案をしたりさせる。 教材文の、読み手への投げ掛けや反語的な文末表現、「である」「ちがいない」などの断定的表現に着目させ、説得力を高める技に気付かせ、プレゼンテーションの話し言葉を考えさせる。 	【話・聞（イ）】 <ul style="list-style-type: none"> 用意した資料を用いながら発表練習を行い説得力のある話し方の工夫をすることが出来る。 （発言、ノート）

		<p>（聞き手の反応を確かめながら話すよう意識付ける。）</p> <p>➡プレゼン技①②③④⑤全て</p> <p>筆者の主張に沿い、説得できる提案になっているか確認する。</p>	
14	<p>○明倫祭りでプレゼンテーションを行う。</p> <p>④ グループ学び</p> <p>全体学び</p>	<p>・提案の良さが伝わる発表の構成や資料の使い方になっているか感想を述べさせる。</p> <p>・プレゼンテーションを次に生かせるよう助言させる。</p> <p>➡プレゼン技①②③④⑤全て</p> <p>要旨が伝わったか確認する。</p>	<p>【話・聞（イ）】</p> <p>・目的に応じて話の構成や資料の見せ方を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話している。</p> <p>また、話し手の意図を捉えて自分の意見と比べながら聞いている。</p> <p>（発言、ノート）</p>
15	<p>○単元を振り返る。</p> <p>自己評価・相互評価</p> <p>ひとり学び</p> <p>全体学び</p>	<p>⑤ <u>・前時の発表でプレゼンテーションの技が生かされたかどうか振り返らせる。</u></p> <p>・<u>自分たちのグループがどのような観点で情報を整理し取捨選択したのか、説得させるような構成や順序になっていたのか振り返らせる。</u></p> <p>・<u>単元を通して身に付いた技を確かめさせる。</u></p> <p>➡プレゼン技①②③④⑤全て</p> <p>要旨を捉え、プレゼンテーションに生かされたか確認する。</p>	<p>【関】</p> <p>・学習を振り返り、町の未来について自分の考えをもっている</p> <p>（発言、ノート）</p>

第6学年 実践事例 （1時目）

1 本時の目標

モデルプレゼンテーションを見て、学習の見通しを立て町の未来についてプレゼンテーションをしようとする意欲をもつことができる。【関・意・態】

2 本時の展開（全15時間 本時 1/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 「町の幸福論」という題名について考える。	○町の幸福とは何か、自由に発表させ、「コミュニティデザイン」の言葉の意味を考えさせた。
2 教師作成のプレゼンテーションを見る。	○筆者の主張している観点に沿った「武雄の未来」を提案するプレゼンテーションを行い、単元のゴールをイメージさせ、児童の意欲を喚起し見通しをもたせた。 ○プレゼンテーションの良さを実感させるために、事例や資料を省いたり、主張が通っていない流れで話したりして、主張が通ったプレゼンテーションをするために、必要な学習を考えさせた。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《本時のめあて》 鹿島の未来を提案するプレゼンテーションを作ろう。</p> </div>	
3 単元の学習課題を話し合い、計画を立てる。	○教材文を読み、筆者の主張に沿った「鹿島の未来」についてプレゼンテーションで提案することを確認した。 ○明倫祭りで地域の方や公民館長、市役所の方などに「鹿島の未来のまちづくり」に向けたプレゼンテーションをすることを確認し、相手意識と目的意識をもたせた。
4 単元の学習課題を決める。	○筆者の主張（要旨）を捉え、説明文の「「読みのものさし」」が使えるか確認した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《学習課題》 要旨を捉えそれについての自分の考えを、事例と筆者の主張を関連付けて、鹿島の未来をえがいたプレゼンテーションをしよう。</p> </div>	
5 振り返りをする。	○プレゼンテーションを作るために見通しをもった計画を立てることができたか振り返らせた。【評価】

3 本時の評価

評価規準	自分たちの町の未来に関心をもって、教材文を読み、プレゼンテーションをするために学習計画を立てることができている。【関・意・態】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	教材文を読み、積極的に発言し、プレゼンテーションをするための学習計画を立てている。	教材文を読み、プレゼンテーションをするための学習計画を立てている。	→これまでの学習計画を振り返らせたり、友達の発言を参考にさせたりする。
評価の方法	発言・ノート・振り返り・行動観察		

4 板書



1時目の板書

5 モデルプレゼンテーションのスライド資料


<p>①</p> <p>発表内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題 利用者数の減少 2. 取り組み 住民参加型 3. 結果 観光客の増加 <p>伝えたいこと</p> <p>人とのつながりが感じられる</p>	<p>②</p> <p>わたしがえがいた未来の町</p> <p>武雄図書館を有名にして、観光客が集まり武雄市民がつながり合う町</p>	<p>③</p>	
<p>④</p> <p>取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> • TSUTAYAを入れる • スターボックスを入れる <p>武雄図書館が話題になり有名</p>	<p>⑤</p> <p>取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住民参加型 • 武雄市民がイベントを行う。 	<p>⑥</p> <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> • 知名度が上がり、観光客が増加 	
<p>⑦</p> <p>わたしの提案</p> <p>提案内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武雄市民でイベントをつくる 2. 観光客と一緒に体験する <p>武雄図書館で住民がイベントを行うことで、観光客とふれあい人となりがつながり合う町</p>			

第6学年 実践事例（2・3時目）

1 本時の目標

「読みのものさし」を使って、構成や事例（説明の仕方）や要旨を捉えて、プレゼンテーションを作ることができる。【読】

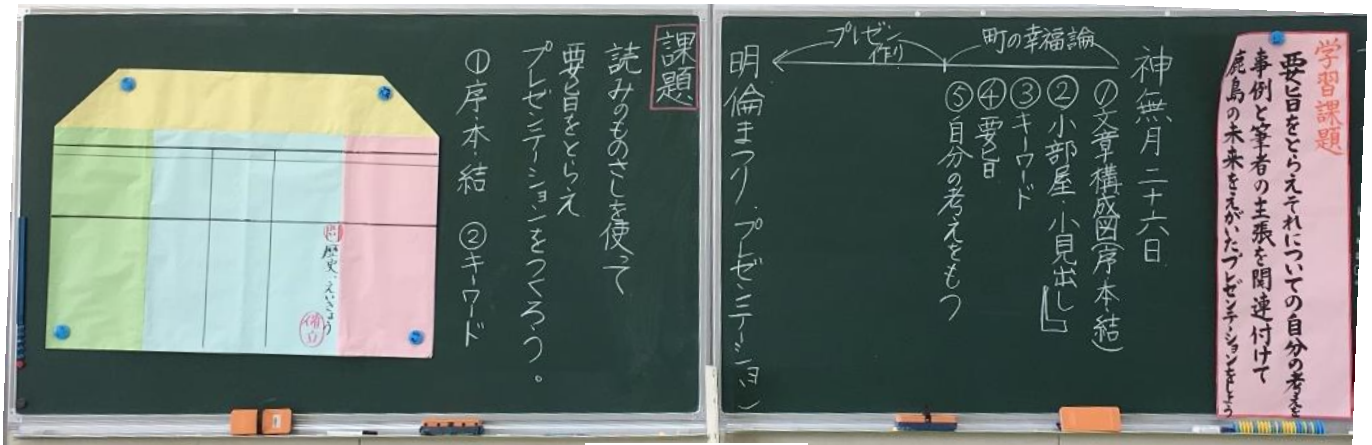
2 本時の展開（全15時間 本時 2・3／15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題を知り、学習計画を立てる。	○「鹿島の未来をえがく」プレゼンテーションをつくるために、「読みのものさし」を見付けることを伝えた。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>《本時のめあて》 「読みのものさし」を使って要旨を捉え、プレゼンテーションを作ろう。</p> </div>	
2 『和の文化を受けつぐ』でプレゼンテーションを作る。 グループ学び  全体学び	○今まで学習した「読みのものさし」を基に、文章構成図を作成し、プレゼンテーションを作らせた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>①序論・本論・結論に分ける。 ②本論に小見出しを付け、事例の述べ方を読み取る。 ③事例（具体）と意見（抽象）の関係を読み取る。 ④キーワードや文末表現から筆者の主張を読み取る。 ⑤キーワードや題名、結論から、要旨を捉える。</p> </div> ○筆者は自分の主張を伝えるために、本論で何をどのように述べているのかをまとめさせた。 ○キーワードと結論と題名を関連付け、要旨を書かせた。 ○要旨の理由をまとめさせた。【評価】
3 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○構成や事例の挙げ方、キーワードや結論から要旨を捉えることで、プレゼンテーション作りの必要性に気付かせ、振り返りをノートにまとめさせた。 ○教材文『町の幸福論』の要旨や筆者の説明の仕方を読み取っていき、プレゼンテーションに生かしていくことを確認した。

3 本時の評価

評価規準	『和の文化を受けつぐ』に書かれていることを「読みのものさし」を基に要旨を捉え、プレゼンテーションを作っている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	要旨を捉え根拠を明らかにしながら、プレゼンテーション作りに必要なことをノートに書いている。	要旨を捉え、プレゼンテーション作りに必要なことをノートに書いている。	→「読みのものさし」とプレゼンテーションとのつながりについて声かけをして理解を深めさせる。
評価の方法	発言・ノート・行動観察		

4 板書



2時目の板書

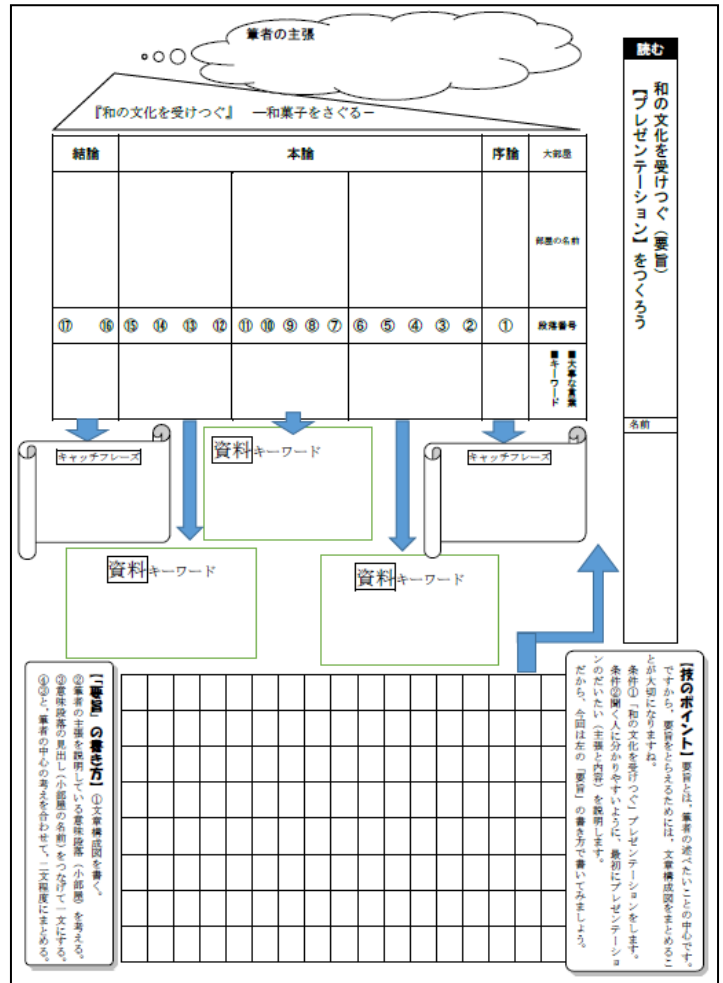


3時目の板書

5 文章構成図



掲示物



児童のワークシート

第6学年 実践事例（4時目）

1 本時の目標

「読みのものさし」を基に、文章構成を3つに分けることを通して、筆者の伝えたいことを序論、結論から見付け、説得力のある構成に気付くことができる。【読】

2 本時の展開（全15時間 本時 4/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	<ul style="list-style-type: none"> ○題名から想像したことを話し合わせ、内容を予想させた。 ○いろいろな構成（頭括型・尾括型・双括型）のプレゼンテーションを提示し、教材文の構成を考えさせた。
2 3つに分けた理由を発表する。 ひとり学び	<ul style="list-style-type: none"> ○3つに分けた根拠を板書し、整理した。 <ul style="list-style-type: none"> ・序論（話題提示・問いの文・まとめ） ・結論（まとめ・答えの文・筆者の主張） ・具体や抽象の言葉 ・接続語 ○頭括型、尾括型、双括型のどれにあたるか考えさせた。
<p>《本時のめあて》 筆者の主張を伝えるための構成の工夫（序論・本論・結論）をみつけよう。 →なぜ、双括型にしたのだろう？ プレゼンテーションも双括型？</p>	
3 文章構成図を書く。 全体学び	<ul style="list-style-type: none"> ○「筆者の伝えたいことは結論だから、結論のみを伝えればよかったのではないか」と問い、序論や本論の大切さに気付かせた。 ○1、2段落は必要かを問い、序論、結論に込められた筆者の思いが繰り返されているキーワードやサブタイトルのコミュニティデザインと関連させながら考えさせた。 ○文末表現「ちがいない」「だろうか」に着目させた。 ○文章構成図（説明文の家）を書かせた。【評価】 ○文章構成図を書いたことで筆者の考えが捉えやすくなったことを自覚させ、プレゼンテーション作りの構成に生かせることを確認した。
4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の主張を伝えるために構成を工夫していることからプレゼンテーションと結び付けて、振り返りをノートに書かせた。 ○本論を小部屋に分け、筆者の主張を読み取っていくことを確認した。

3 本時の評価

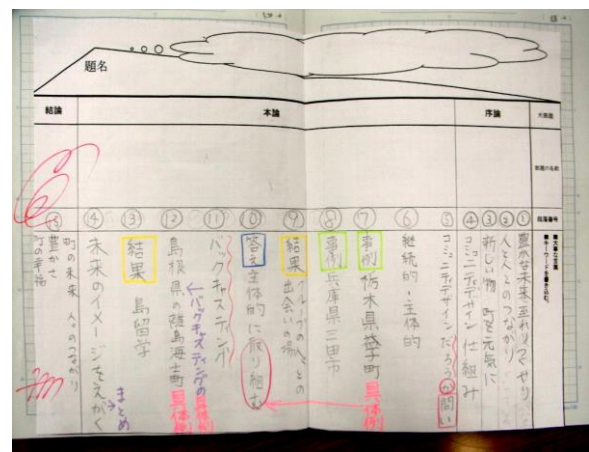
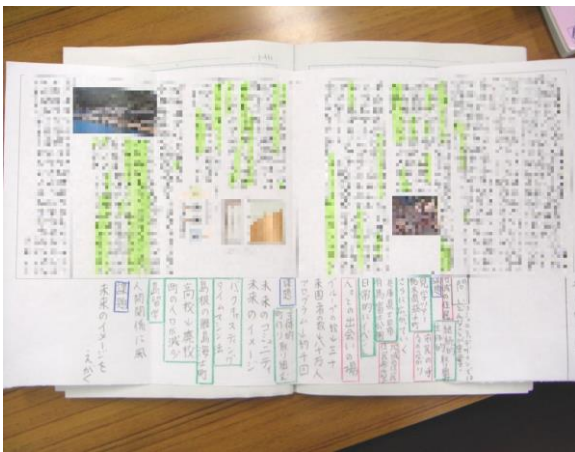
評価規準	文章構成に分けることを通して、双括型の構成に気づき、筆者の工夫に気付いている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	プレゼンテーションに生かすために、文章構成図を書き、双括型の構成にした筆者の意図に気付いている。	プレゼンテーションに生かすために、文章構成図を書き、双括型の構成に気付いている。	→双括型に気付かせるために、序論と結論を読み比べさせる。
評価の方法	発言・ノート・行動観察		

4 板書



4時目の板書

5 教材文を俯瞰して読み、文章構成図に生かす過程



第6学年 実践事例（5時目）

1 本時の目標

「読みのものさし」を基に、段落相互の関係に着目しながら、事例の挙げ方や順序から筆者の主張を読み取ることができる。【読】

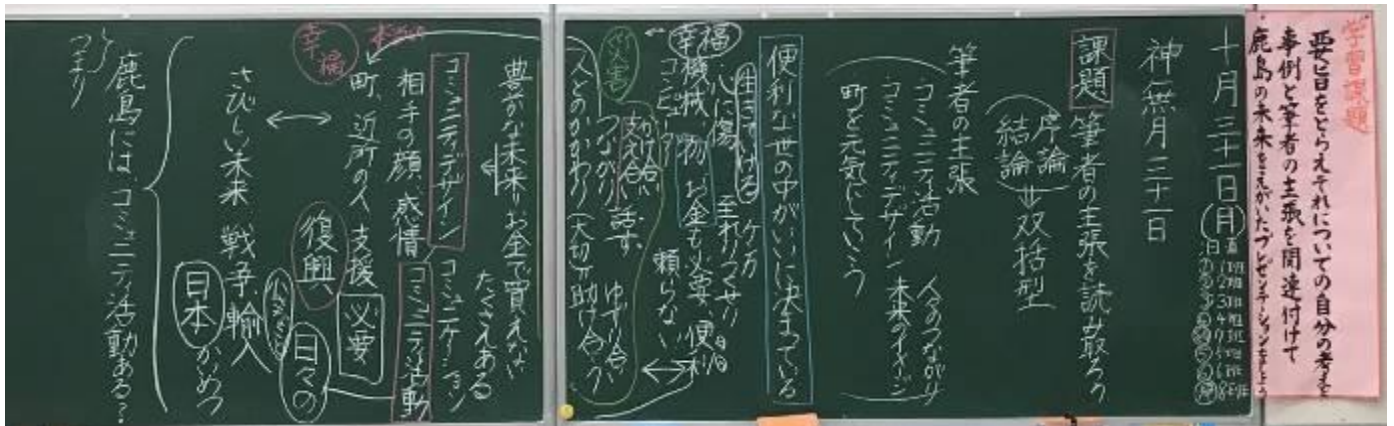
2 本時の展開（全15時間 本時 5/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○本論の必要性について確認し、事例と序論・結論の言葉を比較し考えさせた。
2 本論を小部屋に分けた理由を発表する。 ひとり学び	○分けた根拠を板書し、整理した。 ・接続語「では」「まず」「一つ目の」「この二つの」「このように」 ・事実と意見
《本時のめあて》 事例から筆者の主張を読み取ろう。	
3 事例とキーワードと関連付けて考える。 全体学び	○小見出しを付けさせ、小見出しがプレゼンテーションの項目になることを確認した。 ○筆者の主張を伝えるために、事例の述べ方の順序に気付かせた。 ○3つの事例の共通点と相違点を「つながり」「主体的・継続的」「未来」の言葉に着目させて、コミュニティデザインとの関連を考えさせた。 ○事例は、筆者の主張の根拠となり主張を支えるためにまとまりごとに書かれ、その順番も工夫されていることを理解させた。 ○資料と本文の言葉と照らし合わせ、説明するときの効果に気付かせた。 ○事例で述べられている「課題」「取り組み」「結果」（小見出し）をプレゼンテーションの項目立てに生かすことを確認した。【評価】
4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○筆者の主張を伝えるために、事例の述べ方に工夫があることからプレゼンテーションと結び付けて、ノートに振り返りを書かせた。 ○次時は、筆者が主張しているキーワードから観点を見付けることを確認した。

3 本時の評価

評価規準	事例の挙げ方や順序から筆者の主張を読み取っている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	プレゼンテーションに生かすために、事例は筆者の主張を支えているということに気づき、筆者の主張と事例を関係付けながら読んでいる。	プレゼンテーションに生かすために、事例は筆者の主張を支えているということに気付いて読んでいる。	→キーワードを基に筆者の主張を考えさせる。また、小見出しをつなげて事例の挙げ方を捉えさせる。
評価の方法	発言・ノート・行動観察		

4 板書



5時目の板書

5 事例とキーワードと関連付けて考えるためのワークシート

題名 『町の幸福論』—コミュニティデザインを考える—					読む 『町の幸福論（文章構成図）（事例・小見出し）』をつくらせよう。 大筋を言葉で、 キーワードを書き込み、 課題・取り組み・結果
結論	本論			序論	

第6学年 実践事例（6時目）

1 本時の目標

キーワードを観点に沿って分けたり題名について考えたりすることで、筆者の主張を読み取ることができる。【読】

2 本時の展開（全15時間 本時 6/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○本時の課題につなげるために、子どものノートを提示した。 ○筆者の伝えたいキーワードは何か、挙げさせた。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>《本時のめあて》</p> <p>キーワードや題名から筆者の主張を読み取ろう。</p> <p>～筆者の主張は何かな～</p> </div>	
2 大切なキーワードについて話し合い、観点を考える。 全体学び	○「一番大切なキーワードはどれか」を問い、理由を考えさせた。 ・コミュニティデザイン ・つながり ・主体的 ・継続的 ・未来 ・幸福 ・豊か ○発言を板書しながら、観点ごとにまとめた。 ○『コミュニティデザイン』を別の言葉で言い換えて、筆者の考えるキーワードに込めた思いを考えさせた。 ○キーワードと対比している言葉を見付け筆者の主張を検討させた。 ○筆者の考える「豊かな未来」について考えさせた。 ○筆者の主張である「つながり」「主体的」「継続的」「未来」というキーワードに沿った観点を自分たちのプレゼンテーションに入れることを確認した。 ○バックキャスト法とキーワードを関連付けさせた。
3 題名について考える。 グループ学び ひとり学び	○『幸福』という言葉を使わず、筆者の伝えたいことを述べさせた。 ○『町の』の町に込められた思いなど、題名と本文とを関連付けながら考えさせた。 ○『論』とは、コミュニティデザインという考え方を基に提起した問題に対して、筆者が主張を論じているものを指すということに気付かせた。 ○筆者の言う『幸福論』にはどのような思いが込められているか考えさせた。
4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○キーワードと事例の関係性に気づき筆者の主張が理解できたことをプレゼンテーションに結び付けて、ノートに振り返りを書かせた。 ○次時は、要旨を捉えることを確認した。

【評価】

3 本時の評価

評価規準	筆者の主張をキーワードや題名から読み取っている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	キーワード同士や題名を関連付けて筆者の主張を読み取り、プレゼンテーションに生かそうとしている。	筆者の主張をキーワードや題名から読み取り、プレゼンテーションに生かそうとしている。	→序論や結論に書かれている内容を手掛かりに、筆者の主張を読み取らせる。
評価の方法	発言・ノート・行動観察		

4 板書



6時目の板書

5 筆者の主張の中心となるキーワードを抽出させるワークシート

『町の幸福論』 — コミュニティデザインを考える。

結論	本論	序論	大筋

有馬富士公園

海士町

土祭

有馬富士公園
日常的に組織が活動

海士町
未来のイメージをえがき新しい人間関係をつくる

土祭
市民の力でつながりが広がる

第6学年 実践事例（7時目）

1 本時の目標

「読みの観点」で読み取ったことを基に、題名やキーワード、序論・結論と関連付けながら、要旨を捉えることができる。【読】

2 本時の展開（全15時間 本時 7/15）

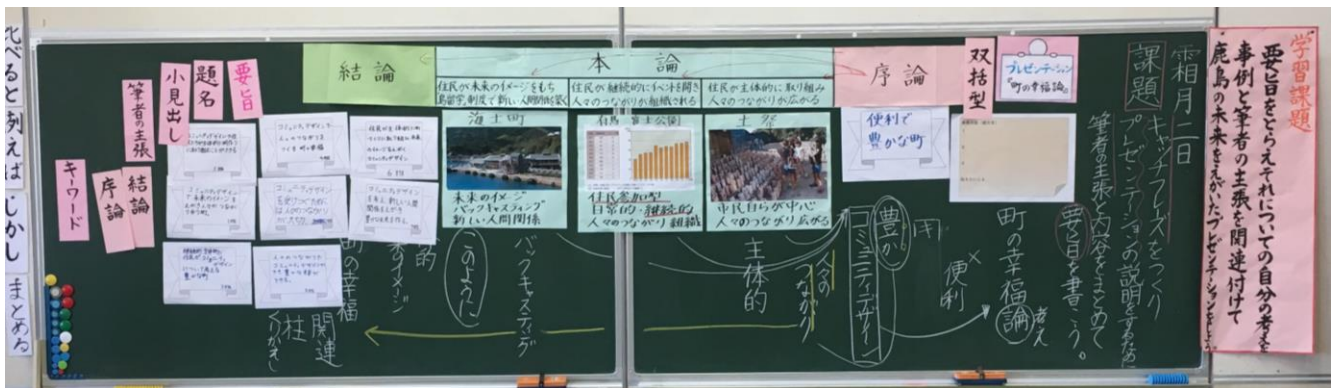
学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○本時の課題につなげるために、前時までに作った『町の幸福論』のプレゼンテーションを提示した。
<p>《本時のめあて》</p> <p>キャッチフレーズをつくり、プレゼンテーション全体の説明をするために、筆者の主張と内容をまとめ、要旨を書こう。</p>	
2 プレゼンテーションのキャッチフレーズ（筆者の主張）について考える。 全体学び	○前時のキーワードから教師作成のキャッチフレーズ（筆者の主張）を提示し、検討させた。 ・便利で豊かな町 ○選んだ根拠を明確にし、筆者の主張と関係付けながら話し合わせた。 ・題名 ・キーワード ・小見出し ・文章構成（序論、結論） ○児童の発言を板書し思考を可視化した。 ○児童の発言を比較させたり分類させたりしながら教師作成のキャッチフレーズ（筆者の主張）を加除修正していった。 ○児童の発言から、筆者の主張と小見出しや題名、キーワードとつながっていることに気付かせた。 ○プレゼンテーションシートにキャッチフレーズを書くことを確認して、「町」で終わるまとめ方にさせた。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【予想される発言内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸福になるための提案だから、「題名」の幸福を入れるべき。 ・コミュニティデザインの考えで、人とつながるという「キーワード」が必要。 ・主体的・継続的な取り組みや未来のイメージをもつなど「事例」のことが大切だよ。 </div> グループ学び	○プレゼンテーションの全体説明をするために要旨を書くことを確認した。 ○文章構成図やプレゼンテーションシートを見ながら話し合ったことを基に、要旨をまとめさせた。 「筆者の伝えたいことは、・・・」と100字以上130字以内で書くという条件を与えた。 ○児童の要旨を電子黒板に映して、紹介した。
3 プレゼンテーションの説明（要旨）をまとめる。 ひとり学び	○プレゼンテーションの全体説明をするために要旨を書くことを確認した。 ○文章構成図やプレゼンテーションシートを見ながら話し合ったことを基に、要旨をまとめさせた。 「筆者の伝えたいことは、・・・」と100字以上130字以内で書くという条件を与えた。 ○児童の要旨を電子黒板に映して、紹介した。

<p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。</p>	<p>○要旨は、筆者の主張や内容の中心を、プレゼンテーションの目的に合わせてまとめることに気付かせた。</p> <p>○要旨を捉えるには、題名、構成、小見出し、キーワードからまとめる方法に気付かせ、プレゼンテーションと結び付けた振り返りを書かせた。【評価】</p> <p>○次時は、鹿島の『町の幸福論』について、自分の考えを書くことを知らせた。</p>
------------------------------------	--

3 本時の評価

評価規準	文章の内容を的確に押さえ、筆者の主張や題名、キーワード、序論・結論と関連付けて、要旨を捉えている。【読】		
判断の規準	<p>十分満足できる状況（A）</p> <p>筆者の主張を読み取り、題名を読み取ったことやキーワード、まとめと小見出しをつないで、要旨をまとめている。</p>	<p>おおむね満足できる状況（B）</p> <p>筆者の主張を読み取り、まとめと小見出しをつないで要旨をまとめている。</p>	<p>努力を要する状況の児童への支援（C）</p> <p>→結論、小見出しの言葉を結び付けさせたり、キャッチフレーズ（筆者の主張）の言葉を生かさせたりする。</p>
評価の方法	ノート・発言・行動観察		

4 板書



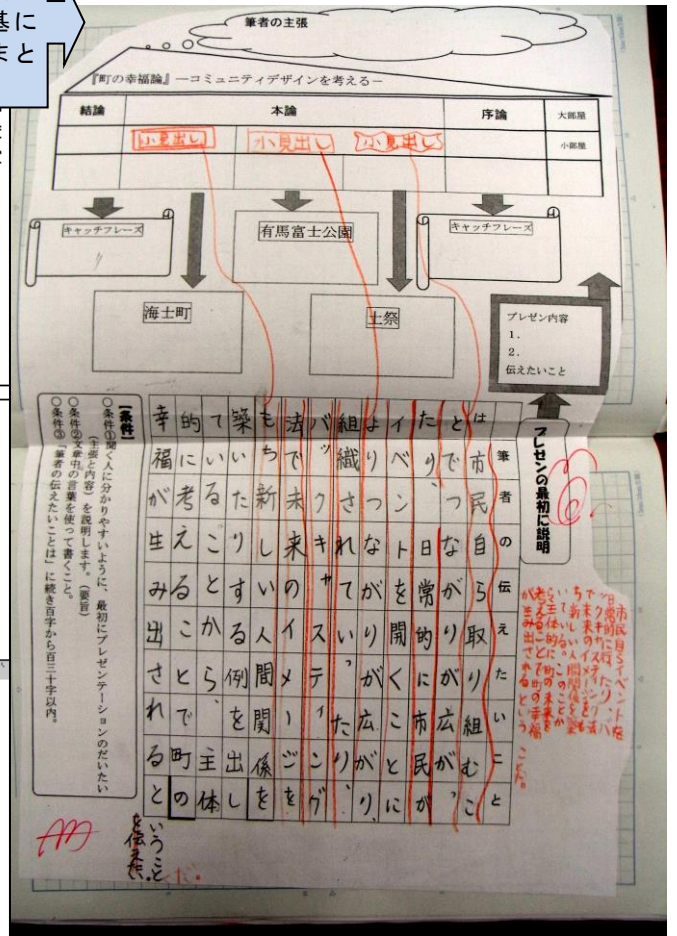
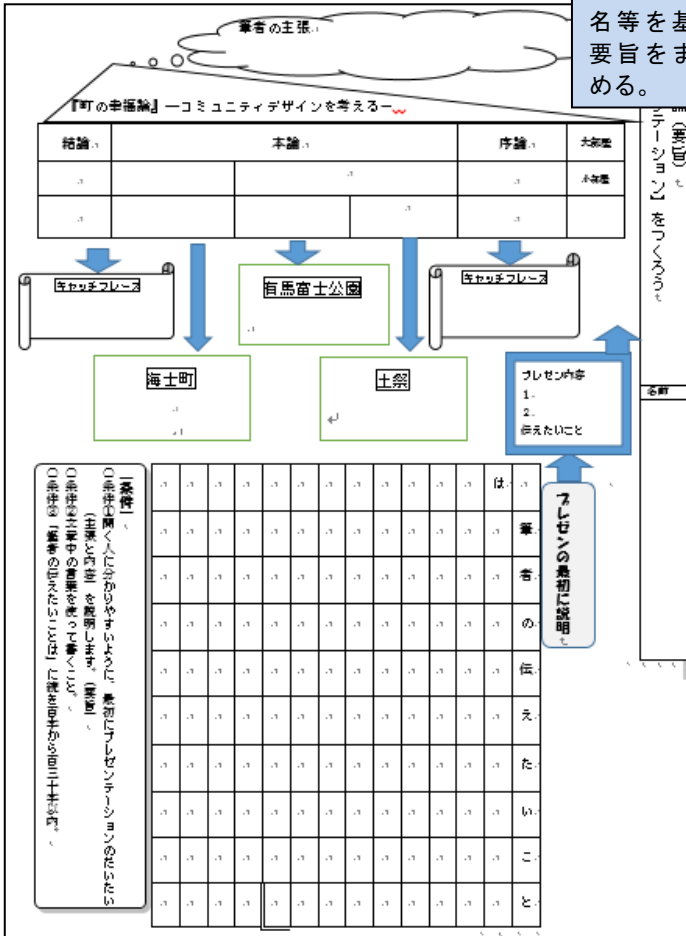
7時目の板書

5 要旨をまとめる際に児童が活用したプレゼンテーションシート

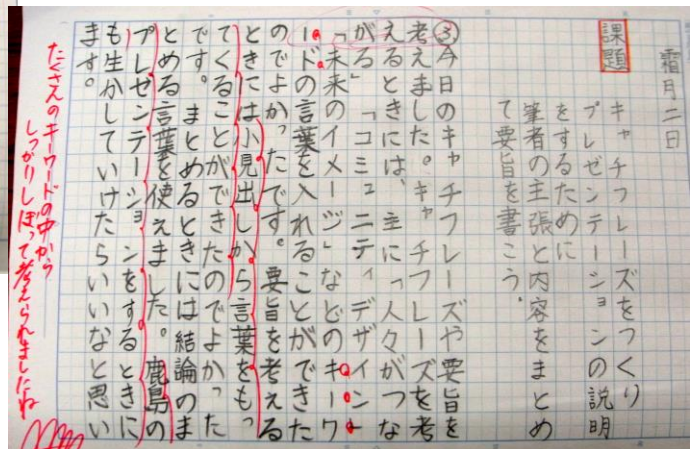
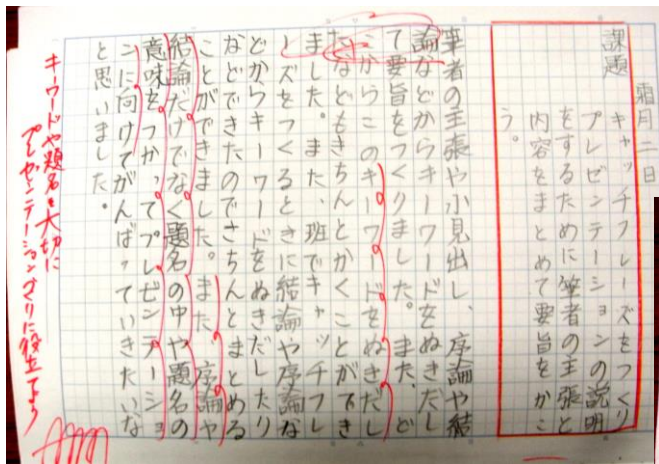
【記入前のプレゼンテーションシート】

小見出し、キーワード、題名等を基に要旨をまとめる。

【記入後のプレゼンテーションシート】



6 児童の振り返り



第6学年 実践事例（8時目）

1 本時の目標

教材文を読み取ったことをプレゼンテーション作りにつなげ、自分の考えをもつことができる。【読】

2 本時の展開（全15時間 本時 8/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○子どものノートを見せ、要旨について確認した。 ○教材文で学んだことを、鹿島の未来の提案作りに生かすことを伝えた。
<p>《本時のめあて》 『町の幸福論』で読み取ったことをプレゼンテーション作りに生かそう。</p>	
2 要旨と説明の仕方について考える。 ひとり学び	○要旨を基に、コミュニティデザインに対する自分の考えをまとめさせた。 ○事例と鹿島の町を比べさせた。
3 自分の考えを書く。 ひとり学び ↓ グループ学び	○筆者の主張について共感・納得できる箇所をノートにまとめさせた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ①筆者の主張に対してどう思うか。 ②鹿島で似ている事例がないか。 ③鹿島の未来についてどう考えるか。 </div>
4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○教材文で読み取った技をプレゼンテーションと結び付けて、振り返りをノートに書かせた。 ○要旨を読み手に説得させるために、様々な工夫があったことに気付かせ、プレゼンテーション作りに生かしていく動機付けを図った。 ○次時は、プレゼンテーションをつくることを知らせた。

【評価】

3 本時の評価

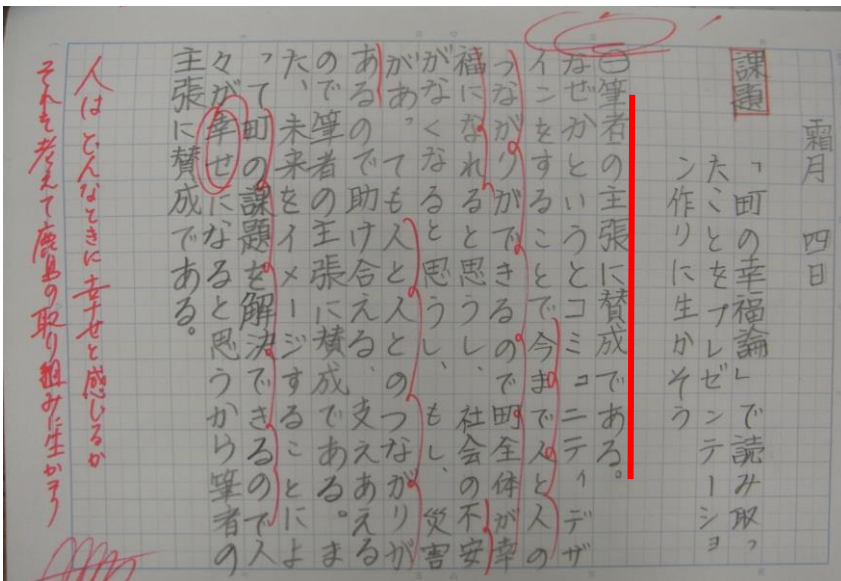
評価規準	教材文で読み取ったことをまとめ、自分の考えをもっている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	要旨について根拠を挙げながら、自分の考えをノートにまとめている。	要旨について自分の考えをノートにまとめている。	→共感・納得・反論から自分の考えを書くように声掛けをする。
評価の方法	ノート・発言		

4 板書



8時目の板書

5 児童のノート記述



第6学年 実践事例（9・10時目）

1 本時の目標

複数の資料を読み、発表に必要な情報を集めることができる。【読】

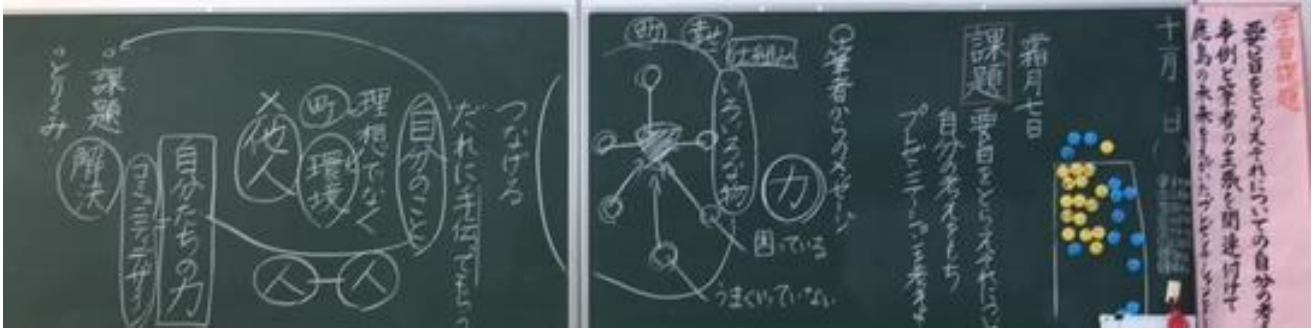
2 本時の展開（全15時間 本時 9・10/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○町の幸福論の要旨を確認し、要旨に沿ったプレゼンテーションを作ることを確認した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>《本時のめあて》 鹿島にまつわる様々な資料を読み、発表に必要な情報を集めよう。</p> </div>	
2 鹿島の町の未来について自分の考えを書く。	○鹿島の町について感じていることや考えていることを話し合わせ、教材文の要旨と関連付けて考えさせた。
3 調べる方法や分担を話し合い、調べる計画を立てる。	○要旨の「人と人とのつながり」をつくるための取組という観点から考えさせた。 ○鹿島の町について調べたいことについて、どうやって調べるのか話し合わせた。
4 提案する町の未来を考えながら、情報を集める。 グループ学び	○鹿島の町にはどのような課題があるか、町の未来の姿について考えながら情報を集めさせた。【評価】
5 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○どの観点の情報が多いか、共通点や傾向を考えさせた。 ○提案の方向性や事例を挙げる観点の見通しを立てさせた。

3 本時の評価

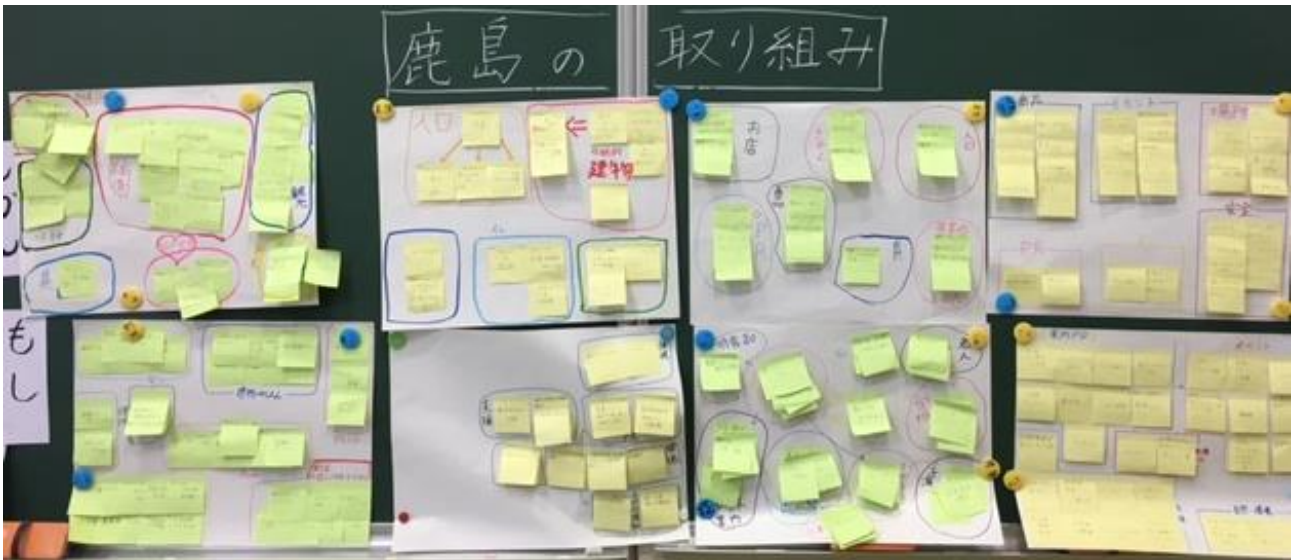
評価規準	目的に応じて複数の資料を読み、情報を関係付けて活用している。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	自分たちの提案に沿った情報を、複数の資料から数多く選んでいる。	自分たちの提案に沿った情報を、資料から選んでいる。	→観点を確認させ、事前に準備しておいた資料を与える。
評価の方法	発言・ノート		

5 板書

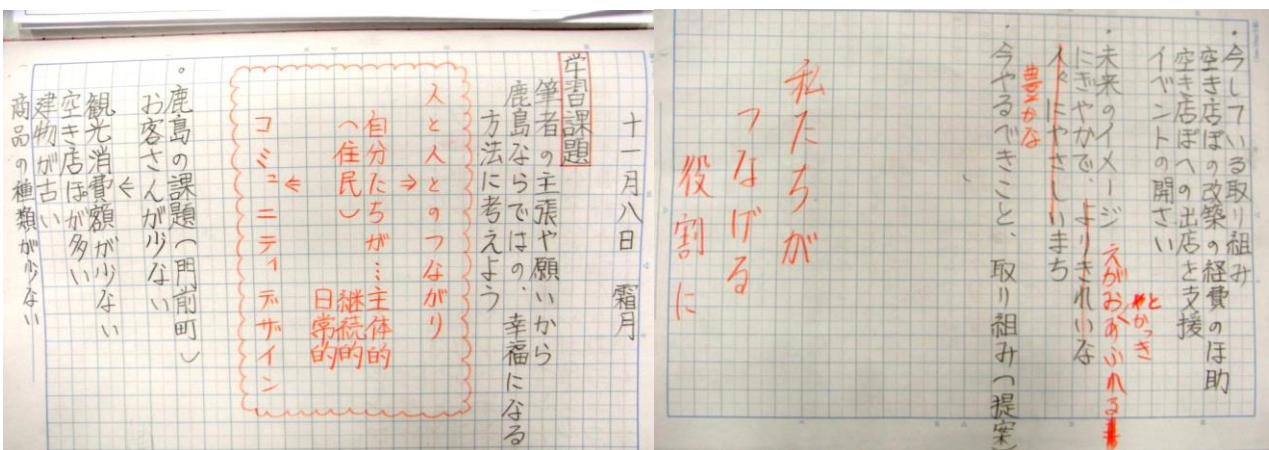


9・10時目の板書

6 自分が住む町の取組を、観点ごとに付箋紙にまとめたもの



7 ノート記述



第6学年 実践事例（11時目）

1 本時の目標

集めた情報を整理して筆者の主張に沿った事例を決めることができる。【読】

2 本時の展開（全15時間 本時 11/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○集めた資料を確認させた。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 《本時のめあて》 提案内容を考え、事例を決めよう。 </div>	
2 集めた情報を整理し、どの事例を挙げて、どのような提案をするか話し合う。 グループ学び	<ul style="list-style-type: none"> ○キャッチコピーを書かせ、提案する内容について考えさせた。 ○集めた情報を観点ごとに整理させた。 ○提案することと取り上げる事例を観点に合っているか話し合わせた。 ○バックキャスト法を参考に提案することを考えさせた。 ○集めた情報や調べて考えたことを基に、自分たちの描く未来の町の姿を、短い言葉にまとめて明確にさせた。 ○自分たちの描いた町の未来の姿と集めた情報を関連付けて考え、提案することをまとめさせた。 ○集めた情報の中から、提案の内容にふさわしい事例を選ばせた。 ○写真やグラフなど資料として用いるものを考えさせた。
3 事例について、話す内容を書き出し、必要な資料を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○事例について話す内容を決め、必要な資料を考えさせた。 ○未来の町の姿と提案の内容を関連付ける事例として、要旨に沿っているか考えて、話す内容や資料を考えさせた。 ○読み取りで学んだ「プレゼンの技」を使って、教材文を参考にしながら、資料を選ばせたり、提案内容を考えさせたりした。【評価】
4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○構成メモ（文章構成図）を作ることを知らせた。

3 本時の評価

評価規準	教材文と関連付けて、提案の内容や事例、必要な資料を考えている。【読】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	教材文を基に観点を明確にして、事例を選んだり、提案内容を考えたりしている。	教材文を参考にして、事例を選んだり、提案内容を考えたりしている。	→いくつかの事例から選ばせる。
評価の方法	発言・ノート		

第6学年 実践事例（12時目）

1 本時の目標

伝えたいことに合わせてプレゼンテーションの構成を決め資料を作ることができる。【話・聞】

2 本時の展開（全15時間 本時 12/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○文章構成図（発表原稿）やプレゼンテーションの資料を作ること知らせた。
《本時のめあて》 プレゼンテーションの構成を決めて発表に必要な資料を作ろう。	
2 自分たちのグループの提案や挙げる事例などを話す順に整理して構成メモを作る。 グループ学び	○発表時間3分に合わせて時間配分を意識させた。 ○構成メモを作り、話す順に整理させた。 ○話のまとめりごとに短い言葉にまとめさせた。 ○教材文で読み取ったプレゼンの技を生かすことを意識させた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・最初と最後に要旨を明確に示す。 ・提案の内容や事例が筆者の主張に沿っているか。 ・説得させるための順序になっているか。 </div>
3 発表に必要な資料を作成する。	○話の一まとめりにつき一資料を準備させるようにした。【評価】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・話のまとめりごとに要点をまとめる。 ・写真に最も伝えたいことを表す言葉を添える。 ・大事なことが明確に伝わる資料にする。 </div>
4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○発表原稿を考えさせ、相手に伝わる話し方の工夫を考えることを知らせた。

3 本時の評価

評価規準	意見を伝えるために説得力のある構成や資料の見せ方を工夫している。【話・聞】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	意図が伝わりやすいプレゼンの構成を決めて、必要な資料を作成している。	プレゼンの構成を決めて、必要な資料を作成している。	→集めた情報と話の構成をつなげさせて資料を作成させる。
評価の方法	発言・ノート		

第6学年 実践事例（13時目）

1 本時の目標

構成に沿って、用意した資料を用いながら発表する練習を行い説得力のある話し方の工夫を考えることができる。【話・聞】

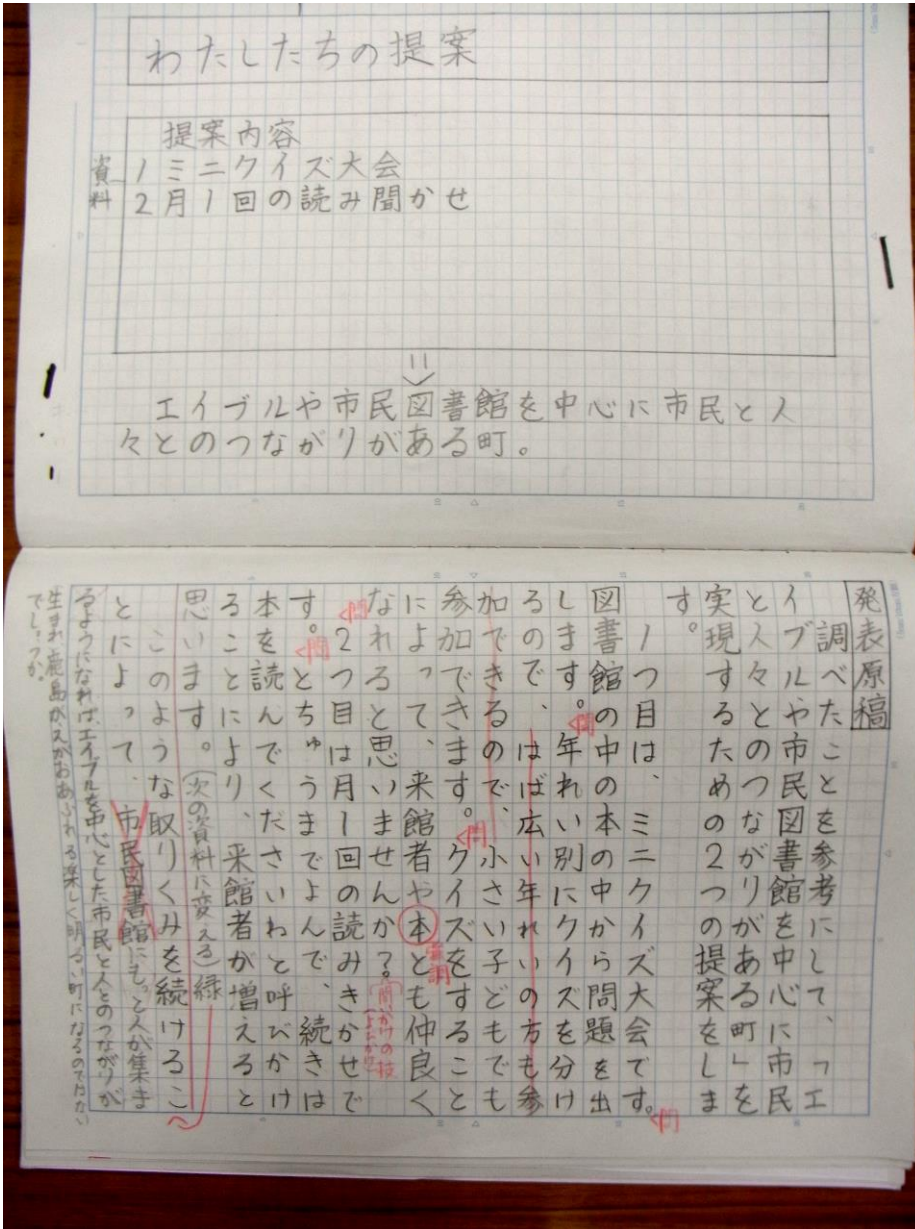
2 本時の展開（全15時間 本時 13/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○要旨が相手に伝わるように発表の練習を確認した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《本時のめあて》 提案の良さが伝わる話し方の工夫を考えながら、プレゼンテーションの練習をしよう</p> </div>	
2 聞き手を引き付ける話し方や資料の見せ方の工夫を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">グループ学び</div>	○デジタル教科書を見て、聞き手に提案の良さが伝わる話し方の工夫を考えさせた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・簡潔な言葉で話す。 ・聞き取りやすい大きさと速さを意識して話す。 ・聞き手の興味を引き付けて話す。 ・反応を見る。 ・間をとる。 ・問いを投げ掛ける。 </div>
3 話し方や資料の見せ方の工夫を考えながら話す練習を行い、グループで助言し合う。	○グループで互いの発表を聞き合い、聞き手に提案の良さが伝わるか考えて、話し方や資料の見せ方の工夫、言葉の使い方を中心に気付いたことを助言し合わせた。【評価】
4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○自分たちの要旨が聞き手に伝わるように、意識してプレゼンテーションをすることを伝えた。

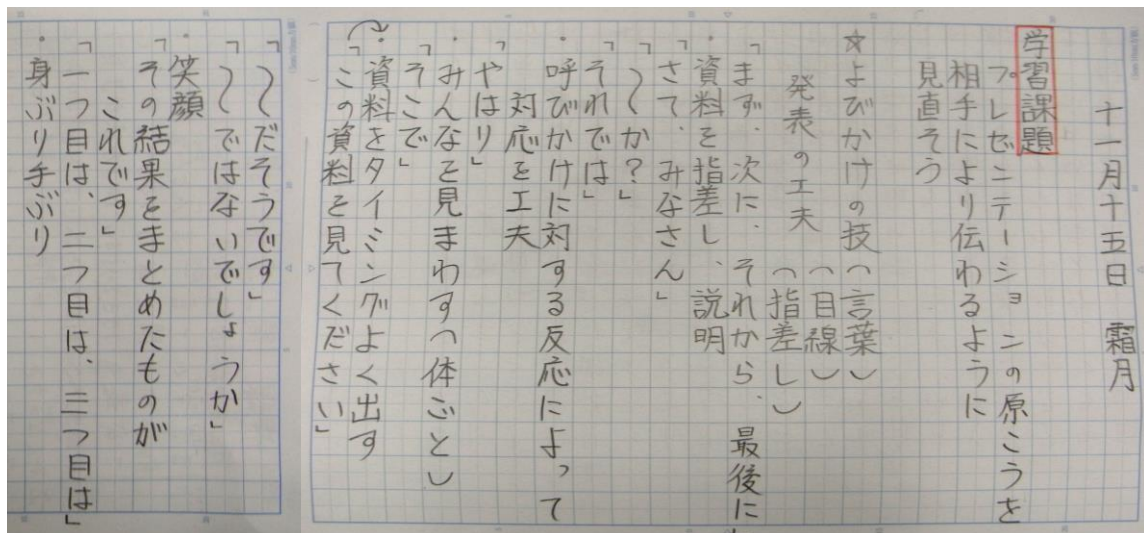
3 本時の評価

評価規準	資料を効果的に活用して、分かりやすく話す工夫を考えて、プレゼンテーションの練習をしている。【話・聞】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	提案する際に資料を出すタイミングや聞き取りやすい話し方を工夫して練習している。	提案する際に資料を出すタイミングを工夫して練習している。	→資料を見せる際には、原稿に合わせて見せたり、原稿に工夫を記入させたりする。
評価の方法	発言・ノート		

4 発表原稿



5 児童がノートに記入した話し方の工夫




第6学年 実践事例 （14時目）

1 本時の目標

提案の良さが伝わるように聞き手を意識してプレゼンテーションをすることができる。【話・聞】

2 本時の展開（全15時間 本時 14/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○学習計画を確認し、本時の学習課題を確認した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>《本時のめあて》 自分たちがえがいた「鹿島の町の未来」について プレゼンテーションをしよう。</p> </div>	
2 練習したことを生かしながら、資料を用いてプレゼンテーションをする。 自分たちの提案や調べたことと比べながらほかのグループの発表を聞く。	○聞き手の反応を確かめながら話すように意識付けた。 ○自分たちの提案や調べた事例と比べて考えながら聞くように意識付けた。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">グループ学び</div>	【評価】
	
3 話し方や資料の見せ方の工夫を考えながら話す練習を行い、グループで助言し合う。	○提案の内容について考えたことや発表の構成の分かりやすさ、資料の使い方について感想を述べさせた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・構成 ・要旨（事例と提案内容のつながりは適切か） ・資料の情報は伝えたいことに合っているか。 ・聞き手の反応を確かめながら話しているか。 ・興味を引き付ける工夫をしているか。 ・資料を見せるタイミングや説明する言葉など、意図が明確に伝わるように資料を用いているか。
4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。	○要旨を相手に伝えることができたか、単元を通して身に付いた力を振り返らせた。

3 本時の評価

評価規準	聞き手に意図が伝わるように話の構成や資料の見せ方を工夫して話したり、話し手の意図を捉えて自分の意見と比べながら聞いたりする。【話・聞】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	工夫して話したり、自分の意見と比べて聞き、感想をもっている。	工夫して話したり、意図を捉えて聞いたりしている。	→自分の意見との違いに意識して話を聞かせる。
評価の方法	発言・ノート		

第6学年 実践事例（15時目）

1 本時の目標

単元の学習を振り返り、町の未来について自分の考えをもつことができる。【関・意・態】

2 本時の展開（全15時間 本時 15/15）

学習活動	教師の働き掛け(○)
1 学習課題との出会い	○明倫祭りを振り返り、学習の振り返りをすることを確認した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>《本時のめあて》 学習を振り返って分かったことやできるようになったことを確かめよう。</p> </div>	
2 教材文を読み返して筆者の主張を確かめ、各グループの発表を振り返る。	○『町の幸福論』の文章を読み、筆者の主張を確かめ、教材文で述べられていたことと関連付けながら、前時の学習を振り返らせた。
3 収集した情報や情報を整理した観点を振り返る。 グループ学び	○「読みのものさし」の技が、プレゼンの技に生かされたかどうか振り返らせた。 ○各グループで調べてきた内容について、どのような観点を整理し、取捨選択したのかを振り返らせた。【評価】
4 本単元の学習を振り返る。	○要旨を捉えること、プレゼンテーションを作ることなど本単元で学んだことを次時の学習に生かすように話した。

3 本時の評価

評価規準	学習を振り返り、町の未来について自分の考えをもっている。【関・意・態】		
判断の規準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況の児童への支援（C）
	要旨の捉え方とプレゼンテーションとのつながりを意識した感想を書いている。	要旨の捉える際の読み方についての感想を書いている。	→要旨の捉え方を確認し、それに基づいた感想を書かせるようにする。
評価の方法	発言・ノート		

4 児童の振り返り

